

☼ 毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です ☼
～ 子どもの読書活動を推進しましょう ～

小学生読書リーダー養成講座 司書教諭説明会

今年の小学生読書リーダー養成講座※¹は、6月9日、16日、23日の土曜日に3日間開催されます。そこで、この養成講座の実施のために参加校の司書教諭に説明を行いました。

はじめに、学校図書館支援センターから昨年度実施した講座の様子や今年の実施要領について説明がありました。そのあと、学校指導課から学校の読書活動の成果や小学生読書リーダーの活動などの説明があり、小学校は平成26年度から4年間読み上げ冊数が増加しているということでした。この増加は、学校の取り組みだけでなく、ブックスタート事業※²やスタンバード文庫事業※³など家庭、公民館をはじめとするいろいろな読書活動推進の成果だと思いました。

今年の小学生読書リーダー養成講座の申し込みは、73校248名です。養成講座の様子は、次号で報告します。



(学校図書支援センターの説明)



(学校指導課の説明)



(説明会に参加した先生方)

※1 小学生読書リーダー養成講座とは、毎年実施されている1日講座です。この講座を受講した小学生は、読書リーダーとして、学校で読書の楽しさや面白さを伝えたり、下級生に小学生読書リーダーの大切さを教えたりする大事な役目があります。

※2 ブックスタート事業とは、福岡市内で行われる4か月児健康診査時に、対象者1人1冊ずつ絵本を配布するとともに、読み聞かせの効用に関する説明やボランティアによる絵本読み聞かせの実演を行う事業です。

※3 スタンバード文庫事業とは、就学前の乳幼児やその保護者が継続的に絵本に触れることができる環境づくりのため、身近な社会教育施設である公民館に、絵本の文庫を整備する事業で、市内すべての公民館に100冊の絵本を配置しています。

前年の小学生読書リーダー養成講座に参加した児童の感想

- ・読書リーダーの活動がわかったので、学校でたくさんの人に読書活動を広めていきたいなあと思いました。
- ・自分の好きな本のPOPを作ることができて、とても楽しかったです。これからの生活に生かしたいです。

Hello! 学校図書館

《東住吉中学校》

その1



今年度も、福岡市内の小中学校、特別支援学校を訪問し、図書館の様子などを紹介していきます。学校の図書館の運営や環境づくりなどの参考になればと思います。

東住吉中学校は、12学級 295名の学校です。図書館前の廊下を通る生徒が図書館の本を読みたくなるような工夫をしています。図書館内では、短い時間で本を選べるように配架の工夫をしたり、POPを掲示したりしています。また、情報センターとして、いつも新しい情報を提供しています。

中学校の図書委員だけでなく、美術部員が描いた本のポスターを掲示するなど、多くの人が図書館の環境づくりにがんばっていることが分かる素晴らしい図書館です。美術部員が描いた本のポスターなどは、次回紹介します。

○ 図書館前の廊下掲示板の工夫



(本の表紙と一緒に本の紹介文を貼った図書館用の掲示板)



(本の表紙とオレンジのカードに書かれた紹介文)



(図書委員のおすすめの本の表紙と委員の紹介文を書いたカード)

本の表紙とその本のPOPを作り掲示しています。また、「図書委員のおすすめの本」を紹介したり、館内に「リクエストBOX」を設置したりして、図書館の本を読みたくなるような工夫をしています。

○ 情報センターとして、新しい情報を得られる工夫

新しい情報が得られるように、朝日中高生新聞を置いています。出入口のそばには、今日はどんな日なのか分かる本を広げ、すぐに読めるようにしています。



(置かれている朝日中学生新聞)



(出入口のそばに置いてある本とリクエストBOX)



(開いて置かれている
今日は何の日かが分かる本)



(図書購入希望や図書館への要望
ができるリクエストBOX)

○本を選び易くする工夫

短時間で本が選べるように、入口そばの図書館カウンター横の丸テーブルの上に本の表紙が見えるように、また、壁の書架には図書委員会のおすすめの本が配架されています。

窓際の掲示版には、推理小説の登場人物の似顔絵や説明、POPなどを貼り、推理小説への興味を高めています。



(カウンターの左側に配置してある書架や丸テーブル)



(「日本十進分類法」の表が貼ってある図書館カウンター)



(窓際の掲示版に、コナンの推理小説に登場する人物紹介やPOPを掲示)



(丸テーブルの上には、本の表紙とPOPが見えるように配架)



(推理小説やファンタジー小説などいろいろなジャンルの本を図書委員のおすすめの本として配架)



(「君は知っていたか？」と挑発的な言葉を使い、斜めに貼ることで、見る人にインパクトを与えています。)



(「怪盗ルパン」の本など、おすすめの本を透明なプラスチックのケースに入れて配架)



(本と一緒にPOPを掲示)



(図書委員のおすすめの本には、1冊1冊にPOPをつけて掲示)

7月生まれの文学者



斉藤 洋（さいとう ひろし）と「ルドルフとイッパイアッテナ」

1952年7月16日 東京都江戸川区生まれ

斉藤氏は、中央大学法学部を卒業し、ドイツ文学博士課程前期を修了後、亜細亜大学でドイツ語の非常勤講師を務めていましたが、物語を書くきっかけになったのは次のようなことからでした。

非常勤講師を務めていたある日、たまたま電車の中で読む本を家に忘れてきたため、駅の売店で夕刊を買ったところ、その中に講談社の児童文学新人賞募集の記事を見つけました。斉藤氏は、賞金の30万円で買いたいものがあつたことや物語の枚数が今まで書いたことのある修士論文の枚数より少なかったことから、絵本さえ書いた経験がなかったにもかかわらず、「児童文学なら、何とか書ける。」と結論を出しました。それから物語の内容を考え書き始め、3か月足らずの短い期間で、原稿用紙200枚程度の「ルドルフとイッパイアッテナ」を書き上げ、応募し、講談社児童文学新人賞を受賞しました。

「ルドルフとイッパイアッテナ」の活躍する舞台は、斉藤氏が育った江戸川区北小岩で、一匹の黒ねこが、仲間のねことさまざまなことを学んでいく物語です。この物語の主人公のルドルフという名前は、斉藤氏の奥さんが西武デパートで買ってきたぬいぐるみにつけてあつた名前、また、イッパイアッテナは、物語を書いている途中で思いついた名前だそうです。

「ルドルフとイッパイアッテナ」は、30年以上にわたって読み継がれてきた作品です。斉藤氏の作品は、「ルドルフ ともだち ひとりだち」「ルドルフとスノーホワイト」など、出版点数は200冊を超えています。



古川 日出男（ふるかわ ひでお）と「ベルカ、吠えないのか？」

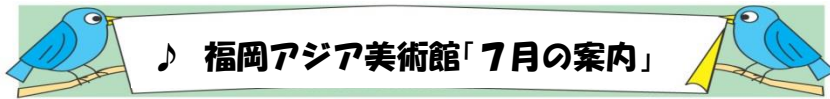
1966年7月11日 福島県福島市生まれ

古川氏は、幼いころから本などほとんど読んでいませんでした。小学校5年生の時には、井上陽水を真剣に聴いていました。高校の部活は、表現系か一人でするものと考え、最初に勧誘してきた演劇部に所属しました。演劇部では、清水邦夫さんの戯曲などはほとんど台詞を覚えるくらい読み、そして、台本を書いていた。

早稲田大学第一文学部中退後は、編集プロダクション勤務などを経て「13」で作家デビューしました。小説を書くきっかけになったのは、古川氏自身が、演劇や舞台ということで自分のイメージが制約されることが多く感じるようになっていた時にたまたま外国の小説を読み、小説ならイメージどおり書けると思ったからでした。

「ベルカ、吠えないのか？」は、太平洋戦争中にキスカ島に取り残された4頭のイヌから物語は始まり、軍用犬の視点から戦後の世界などを描いた作品です。

小説を書いている日は、朝6時半くらいに起床し、1時間ほど読書した後、9時半か10時くらいから1～2時間執筆します。午後は3時間ほど執筆しますが、とても体力を消耗するので、いつもチョコレートでエネルギーを補給していたのが、内臓を壊してからは、エネルギー入りゼリー飲料を飲みながら執筆しているそうです。古川氏の作品には、「アラビアの夜の種族」「アビシニアン」「聖家族」「ボディ・アンド・ソウル」などがあります。



♪ 福岡アジア美術館「7月の案内」



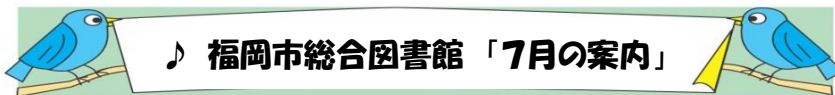
* アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ

8日(日), 10日(火)

- ・時間: 11:30 ~ 12:00, 13:00 ~ 13:30
- ・場所: 7階「キッズコーナー」(申し込み不要)

「おいでよ! 絵本ミュージアム2018」

- ・会期: 7月19日(木) ~ 8月19日(日) ※会期中無休
- ・時間: 10:00 ~ 18:00 (入場は17:30まで)
- ・観覧料: 一般1000円(800円), 高・大生700円(500円), 小・中学生500円(300円), 未就学児は無料
※()内は前売り, 団体料金 ※チケットは当日に限りフリーパス
- ・内容: 子どもたちの感性や想像力・創造力をはぐくむために, 五感に働きかける様々な仕掛けやオブジェ, 絵本の世界観を感じることができる空間をプロデュースします。12回目を迎える今回は, これまでのノウハウを活かしながら, 約1000冊の絵本と原画の展示や様々なイベントを通して, 子ども時代, 子どもならではの感性の大切さを伝えます。
※「おいでよ! 絵本ミュージアム2018」の期間中は, 絵本の読み聞かせを毎日開催! ・時間 11:30~, 13:00~ (1日2回)



♪ 福岡市総合図書館「7月の案内」



* 毎月のおはなし会

7日(土), 8日(日), 14日(土), 15日(日)
21日(土), 22日(日), 28日(土), 29日(日)

- ・時間 土曜日: 7日
14:30~14:45 赤ちゃん向けおはなし会
14:50~15:10 幼児向けおはなし会
- 14日
14:30~14:50 幼児向けおはなし会
14:55~15:10 つくってみよう やってみよう
- 21日
14:30~14:45 赤ちゃん向けおはなし会
14:50~15:10 幼児・小学生向けおはなし会
- 28日
14:30~15:00 小学生向け催し
- 日曜日: 14:30~ 幼児向けおはなし会
15:15~ 小学生向けおはなし会

- ・場所: 「こども図書館 おはなしの家」

□ 図書館員のひみつの本棚 《 No.146 》

福岡市総合図書館 読書相談員の重村さやかさんが、毎月素敵な本を紹介してくださる楽しみなコーナーです。

今回の本は、重い脳性マヒの障がいを持って生まれた男の子の人生を描いた物語です。この本では、いろいろな仕打ちやさげすみの目などに負けるのではなく、常に前向きで明るく生きるピーティの姿に感動を覚えます。子どもたちに勧めたい1冊です。

☆ 今月の本

『ピーティ』

ベン・マイケルセン／作 千葉 茂樹／訳 鈴木出版 2010年 1620円

☆ あとがき

今月、「7月生まれの文学者」で紹介している斉藤氏の「ルドルフとイッパイアッテナ」は、1987年発行から30年以上も読み継がれ、100万部を超えたロングセラーです。2017年には映画で公開され、日本アカデミー賞アニメーション優秀賞を受賞しています。この作品が映画化される条件としては、作者の斉藤氏が出演することだったそうで、斉藤氏は、自転車に乗っているおじさんの「おっ、ごめんよ。」という声を担当したそうです。

この斉藤氏が作家になるきっかけは、電車で読む本を忘れたことや夕刊を買ったことなど、いろいろな偶然が重なったことでした。そして、それらを活かしたことで、斉藤氏は、作家として活躍できるようになりました。

これからも作家の誕生秘話など、いろいろなエピソードを伝えていくことができると思っています。

発行：福岡市教育委員会 生涯学習課

電話：092-711-4655 FAX：092-733-5538

図書館員のひみつの本棚 第146回

今月は10代の子どもたちにぜひ読んでもらいたい物語をご紹介します。

『ピーティ』

ベン・マイケルセン／作 千葉 茂樹／訳 鈴木出版 2010年 1620円

<お勧め年齢>

乳幼児--- 低学年--- 中学年--- 高学年☆☆ 中学生☆☆☆
高校☆☆☆ 一般☆

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

重い脳性マヒの障がいを持って生まれた男の子、ピーティの人生を描いた物語。

舞台はアメリカ。物語は2部構成となっており、第1部はピーティが生まれた1920年代からピーティが50代になる1960年代頃まで。ピーティの両親は彼を愛していたが、金銭的に育てることが困難になり、ピーティを精神病患者が収容される施設に預ける。この頃、脳性マヒの人には感情も知性もないと思われていた。しかし、手足を動かすことも、寝返りをうつことも、話すことも満足にできないピーティの中には、輝くような好奇心と知性があり、思いやりと感謝の念にあふれた心を持っていた。ほとんどの人がその輝きに気が付かない中、何人かの人はピーティの素晴らしさに心を惹かれていく。ピーティの知性に最初に気が付いた介護助手のエステバン。ピーティの最初のそして生涯の友達になった同じ収容患者のカルビン・アンダース。20代のピーティを心から愛した看護師キャシー・グレーバーなど。しかし、様々な理由から、ピーティに心惹かれ、ピーティも心を寄せた人々は、ピーティの側からいなくなってしまう。55歳になり、ウォームスプリングズの収容所からボーズマンの介護施設へ移される頃には、ピーティはもう誰も好きにならないと心に決めていた。

しかし、それから13年後、第2部ではそんなピーティに新しい出会いが訪れる。10代の少年トレバーが、あるきっかけでピーティの親友となったのだ。

障がいという重いテーマを描きながら、読み終わり本を閉じる時にはすがすがしい気持ちにさせてくれる秀作。

<子どもに手渡す時のポイント>

書架に並んでいるだけでは面白さが伝わらない本です。ぜひ、いろいろな機会を見つけて子どもたちに手渡してあげてください。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

